

目次

池畑 美恵子：課題学習場面におけるセラピストの教授行動に関する臨床的研究 —経験年数の異なるセラピストの比較から—	1-10
長洞 萌美：自閉症児の認知・コミュニケーションを育てる 教材・教具を活用した学習プロセス —発達のアンバランスと飛び越えへのアプローチ—	11-20
恩田 智史：発達障害幼児の大小系列化操作に関する臨床的研究	21-30
大隅 小夜子：障害児臨床実習における学生の学びに関する調査	31-40
冨澤 佳代子：感覚と運動の高次化における自己像発達 —思春期の発達支援を視野に入れて—	41-50
横田 千賀子：重度自閉症児の情動に関する臨床的研究 —C児の1年目の外界志向性とかかわり整理より—	51-59
辰巳 南薫子：激しい自傷、他傷行為を、教材を使った学習で 乗り越えていったAくん	61-70
加来 慎也：粗暴さを伴う問題行動に対応した特別支援教育の実践検証 —地域の教室での巡回相談実践からの構築—	71-82
講演録 ：講演「感覚と運動の高次化から見た発達臨床 —発達臨床類型と臨床方略を中心に—」	83-105
発達臨床研究センター事業概要	107-111